

自己改革進捗状況報告

(平成 29 年 3 月末現在)

平成 28 年度 実践状況【総括】

平成 28 年度より中期経営計画とともに、自己改革工程表を策定、業績評価指標を取り入れ、農業者所得の増大、農業生産の拡大さらに地域の活性化への貢献と具体的な数値目標を設定し取り組んでいます。

初年度を経過した中で、将来を見据えた農家の育成・支援強化において、労働力斡旋支援強化は、「みかんの里マンダリン」の規模拡大もあり、ほぼ計画通り延べ支援人数を確保することができました。今後も産地間連携協議によるアルバイト確保、支援作業員の処遇等の改善、効率化を図り、労働力の確保に努めていきます。併せて新規参入就農者の確保・支援についても新規就農者 2 名、研修生 5 名と計画を前倒しで取り組んでいます。

生産面においては、極早生・老木園・奨励品種への改植、オリジナル品種の生産拡大等の取り組みは、ほぼ計画通りに進捗していますが、マルチ被覆と土壌改良において計画に到達しておらず、平成 29 年度は、特にマルチ被覆において計画を見直し、思い切った助成措置を講じ、温州の糖度 12 度以上の比率を高め、高品質生産に取り組んでいきます。

販売面では、販売出荷計画会議を入念に開催し、単価的には高値で推移をしましたが、温州、中晩柑ともに数量減が大きく影響して販売高は計画を下回る結果となっています。平成 29 年度以降は出荷量の確保に向けてより詳細な計画を策定して取り組みます。

資金面のサポートにおいて、新規農業融資が当初の計画を上回る実績をあげることができ、平成 29 年度以降の計画値を上方修正し、金融担当部署と営農担当部署が更に連携を密にし、農家の需要を掘り起こしていきます。

生産資材のトータルコスト低減の取組においては、生産資材取扱部署の集約を図り、より効率的に運営し、肥料の予約比率を高め価格に反映していけるよう取り組みます。また、経済部、営農指導部署が連携し予約注文書の統一様式を作成し、さらに、農家組合員が効率的かつ効果的に生産ができる様に指導員による講習会等の適正指導に取り組みます。また、平成 29 年 4 月の人事異動において一般職員を 3 名登用し、営農指導員の育成に向け、強化の第一歩として進めて参ります。

金融事業では、総貯金残高目標を突破し、厳しい環境下ではありますが計画を上方修正し、更に増強に努めてまいります。共済事業でも利用者満足度 96.2%と計画達成、県下 No.1 実績を挙げる事ができました。新規獲得件数においては、計画の 600 件には及びませんでした、546 件の実績であり、次年度以降も引き続き計画達成に向けて取り組んで参ります。

経済事業では、事業環境が厳しい中ではありますが、58 億円あまりの供給高を確保、平成 29 年度以降畜産事業の縮小、生活店舗を含めた生活購買事業の見通しについても不透明であり、厳しさが予測されます。今後、より効率化を図り、また職員の資質の向上に努め、自己改革の実践に努めます。平成 28 年度、買物弱者支援、地域貢献の一環として移動購買車の 2 号車を運行、利便性の確保に努めております。

平成 28 年度は、事業利益段階で 3 億 6,100 万円と計画、前年とも大きく上回る事ができました。平成 29 年度以降も自己改革に邁進し、健全経営に努め組合員の負託と信頼に応えるべく取り組んで参ります。

基本目標

農業者所得の増大・農業生産の拡大 + 地域の活性化への貢献

最重点実施分野

- ①西宇和農業の振興に向けて担い手の育成支援
- ②営農経済部門の体制強化
- ③マーケットインに基づく生産振興・販売事業改革
- ④付加価値の増大
- ⑤生産資材事業におけるトータルコスト低減

実績数値の進捗

		当初の目標	平成 28 年度末実績
果実販売高	温州	100 億円	96 億 2,800 万円
	晩柑	50 億円	46 億 4,700 万円
栽培面積		3,100ha	集計中
共選出荷農家戸数		2,300 戸	集計中
購買品取扱高		56 億 5,000 万円	58 億 8,200 万円
J A 共済新規加入者		600 件	546 件
総貯金残高		1,411 億円	1,412 億円
農業融資新規実行額		1 億円	1 億 4,500 万円

将来を見据えた農家の育成・支援強化その①

①農作業支援を通じた農家支援体制の充実

- アルバイター事業 220 名 受入れ 6,400 人役、三崎ワーホリ 500 人役
- J A 農作業支援 延べ人数 2,067 人
- 西宇和みかん支援隊活動の行政との情報共有・連携強化の中で伊方町単独で支援事業の予算化決定

	数値目標	実績
	8,830 人	8,967 人
	会議開催計画	実施回数
	12 回	12 回

②新規就農者の確保・支援（1ターン就農者）

- 新農業人フェアに若手農家中心に 7 回参加（2月に同志会 10 名）
- 産地受入体制整備で受入支援チーム 6、体験ホームステイ農家 4 戸増

	受入人数計画	実績
	なし	就農 2 名
	なし	研修生 5 名

③農地流動化による優良園地の確保

- 共選別優良園地の明確化、農地流動化委員会機能強化は未取組

今後の取り組み



- マンダリンの活用方法・調整、産地間連携の協議（北海道、沖縄等）を進める。
- 農作業支援事業における作業スキルの平均化、農閑期の仕事確保、農業経営の従事を検討していく。支援作業職員も全国連携を協議していく。
- J A 本体による農業経営の実施についてはモデル地区を設定し平成 29 年 4 月より実施、併せて研修生受入地区においても園地維持、研修を目的で実施を検討。

将来を見据えた農家の育成・支援強化その②

①高品質生産への取り組み強化

- 奨励品種への改植促進では、温州 47,000 本、デコボン・清見・甘平で 32,400 本
- マルチ栽培の拡大では被覆面積 136ha で温州栽培面積の 7.9% であり糖度 12 度以上の割合が温州全体で 20.9% で計画の約半分
- 適正資材の普及では石灰資材 28,700 袋で 655ha 施肥率 21.3%、カルシウム資材の配布では散布率 105%。年 2 回 168 点の土壌分析実施
- オリジナル品種の生産拡大では紅マドンナ 16 棟、67ha の施設設置
- 甘平・せとかの精品率向上の取組実施

改植面積	計画	実績
	30ha	集計中

②農薬適正使用による安全・安心な農産物づくりへの取組

- 残留農薬検査 34 検体実施、全共選年 2 回の内部検査実施

生産履歴回収率	
計画	実績
100%	100%

③補助事業の有効活用による経営基盤の強化

- 園内道の整備促進で果樹産地づくり 34 カ所、単軌道更新整備で 65 園地、果樹経営支援対策事業で 79 カ所、個人スプリンクラーで 18 カ所実施。鳥獣害対策では鉄筋柵 118 戸、38.4ha、21,124 枚実施。今後全農家への補助事業の周知を徹底する。



今後の取組み

- 県外主要産地との差はマルチ被覆にあるため、マルチ被覆面積の拡大に努めていく。
- マルチ被覆への支援強化として労働力支援と併せて助成事業の大幅な見直しを行う。
- 土壌分析結果を基に生産指導を強化していく。

将来を見据えた農家の育成・支援強化その③

①農家経営をサポートする農業融資の強化

- メイン強化先 68 件、訪問回数合計 341 回訪問
- 農業おまかせ資金では初年度で 3 年累計計画を超える実績

農業融資新規実行額	
H28 計画	H28 実績
6,000 万円	14,600 万円



今後の取組み

- 農業おまかせ資金の計画数値を見直し、3 年累計で 25,000 万円に上方修正し需要を掘り起す。

将来を見据えた農家の育成・支援強化その④

- 新規就農・青年就農給付金受給者対象の相談・指導実施
- 新規就農者（親元就農含む）を対象に経営管理（税務会計・作業記録・資金他）の研修会開催（30 名）

付加価値の増大 マーケットインに基づく生産振興・販売事業改革

①年間を通じた長期安定供給に向けて加工品の販売

- H28 年産デコポン・清見・ジュースは 9 月末完売したが原料不足により計画割れ
- 冷凍柑橘の試食販売実施、母の日、お中元用として商談中であり定着化を図る。
- 流通センター、甘柑日和で販売開始
- それぞれ時期、品目ごとに出荷計画会議の開催
- 共選間の委託荷造りの実施
三瓶 1,490 t、三崎 406 t、八幡浜 372 t、八協 1,905 t

西宇和産 100% 果汁	
計画（年）	H28 実績
1,500 万円	1,000 万円
冷凍柑橘	
計画（年）	H28 実績
500 万円	50 万円



今後の取組み

- 共選再編にむけての前段の取組として各共選償却資産の調査を実施、また各所調査、アンケート調査等を揃えて検討を進めていく。
- 共選間委託荷造りを進め、稼働率アップを図る。
- 品目毎に出荷計画会議を開催し、ワンランクアップした販売を行い、農家所得の向上を目指す。
- 消費者ニーズに応える商品作りとして、味にこだわり品質内容で付加価値の増大を目指す。
- 直売所での販売を強化する。（甘柑日和・流通センター・アゴラマルシェ）
- 加工品の年間を通じた長期安定供給に向けて加工品販売を強化する。

生産資材におけるトータルコストの低減

① 営農指導部門との連携強化による肥料の予約注文精度の向上

- 土壌改良剤は 27 年度対比 100.9 % の実績。約 22 種類 53,200 袋の実績
- 各種講習会を通じてチラシ等を活用して土壌改良材の重要性説明実施
- 予約肥料（春、夏、秋肥）227,800 袋、昨年対比 99.6 % 実績
- 農薬クラー防除実績昨年対比 107.8 %。除草剤キャンペーン実施
- 年 4 回にわたって価格の市場調査実施、交渉力強化を図った。
- 生産資材予約品目見直し検討実施した。供給実績計画対比 110.3 %
- ガソリン数量実績 前年比 102.3 % で計画未達（計画前年比 103 %）
- 現金カード会員取り組み強化実施 743 件獲得
- 購買部門費用支出により 3,000 万予約肥料取扱高に応じて組合員に還元

肥料予約比率	
H28 目標	H28 実績
85.0%	88.5%
経済部門供給高	
H30 目標	H28 実績
43 億円	44.1 億円
生活部門供給高	
H30 目標	H28 実績
13.5 億円	14.6 億円
購買部門費用	
H30 目標	H28 実績
63 百万円	96 百万円



- 平成 29 年度より予約注文書の統一様式活用、今後も予約購買比率を高め価格に反映させる。
- 営農指導部門と連携しマルチ被覆の啓蒙を図りタイベックの推進を強化する。

組合員利用者ニーズに応える事業展開と商品の提案

① 事業利用者への訪問体制の強化

- 個人貯金増大に向けた情報収集活動の取組として F S T を中心とした同行訪問実施、実績見込み 3 ~ 5 件 / 日、未来情報は 1 ~ 2 件 / 週で未達
- 窓口も F S T 実施により情報収集力がアップ、1 ~ 2 件 / 日の獲得
- 八幡浜支店管内で年 6 回年金相談開催し利用相談に対応
- 定期積金ノンストップ運動 MA は目標達成、窓口未達
- 大口取引先訪問は MA の F S T とキャンペーンでカバーできたが管理者は約半数となっており店舗間格差が発生
- 八幡浜支店管内で年 6 回ローン相談会開催、7 名の相談受付
- 住宅ローン利用感謝訪問訪問率 100 % 達成
- マイカー、教育ローン修正目標 82 百万円に対し 109 百万円の実績
- 既存メイン強化先 68 件全戸訪問、訪問合計回数 341 回実施
- 農業融資実務試験 8 名受験 5 名合格

総貯金残高	
H30 目標	H28 実績
1,411 億円	1,412 億円
個人貯金残高	
H30 目標	H28 実績
1,271 億円	1,261 億円
渉外情報獲得件数	
H30 目標	H28 実績
3 件 / 日	3 ~ 5 件 / 日

② 共済事業利用者対応力強化によるサービスの向上

- 現場急行サービスにおいて現場急行率目標 25 % に対し 28.6 % の実績
- 車両先行払いを徹底し早期支払い車両率 79 % 対物 60 % の実績
- 利用者総合満足度県下 No. 1 実績

利用者総合満足度	
計画	実績
95%	96.2%

③ J A 事業未利用者への事業・商品の提案

- こども・介護・医療共済、527,500 P 計画に対し 884,470P 実績
- 3 Q 訪問活動の実施 LA 2 件 / 日の目標に対し 1.7 件 / 日の実績
- なないろデザインキャンペーン応募枚数 13,639 枚 / 11,700 枚 (全 LA)

共済付加収入	
H30 目標	H28 実績
716 百万円	755 百万円

④ 移動購買車の運行による組合員・地域住民へのサービス向上

- 1 号車は三崎・瀬戸地区で徐々に浸透している。1 月 27 日から 2 号車を運行、保内・伊方・町見地区を運行しており、今後の需要等により見直しを行う。

移動購買車巡回箇所	
H30 目標	H28 実績
36 箇所	41 箇所



- 総貯金残高 1,450 億円に上方修正し、さらに個人貯金増大への取組強化のため、渉外活動の充実と職員の資質向上に努めていく。